

バイオサイエンス学科 学会発表

【発表者について】アンダーラインは本学教員、研究員および技術職員、○は発表者、※は大学院生、卒研究生または卒業生

<p>学会名</p>	<p>日本植物学会第81回大会（2017年9月8日-10日、千葉県野田市東京理科大学野田キャンパス）</p>
<p>演題名</p>	<p>光に導かれての微細藻類カロテノイド研究事始め</p>
<p>発表者</p>	<p>○篠村知子（帝京大・理工）</p>
<p>内容</p>	<p>カロテノイドは原核生物から高等植物まで広く分布するテルペノイドの一種であり、植物では光合成における補助色素としての作用や、キサントフィルサイクルを介する光保護作用や抗酸化作用などの機能が明らかにされつつあります。さらに近年は、アポカロテノイドと総称されるカロテノイドから合成されるさまざまな生合成産物が、非常に多様な機能を果たすことがわかってきました。そこで、植物における多様な生合成系や機能に関する最先端の研究を紹介し、今後の研究の方向性を議論する機会として、「カロテノイド：その多様性と普遍性が切り拓く新展開」（オーガナイザー：篠村知子・帝京大、池内昌彦・東大）と題するシンポジウムを企画しました。</p> <p>本発表では、オーガナイザーとしてシンポジウムの企画の意図を概説し、招待講演者の方々のアウトラインをご紹介しますとともに、本シンポジウムを通じ、カロテノイド研究の新展開を学会横断的に共有しつつ、微細藻類の生命史20億年に渡る光を求めての日々の営みの理解や、将来の産業応用への新たな進展を促す一助としたい旨を説明しました。</p>
<p>関連画像</p>	